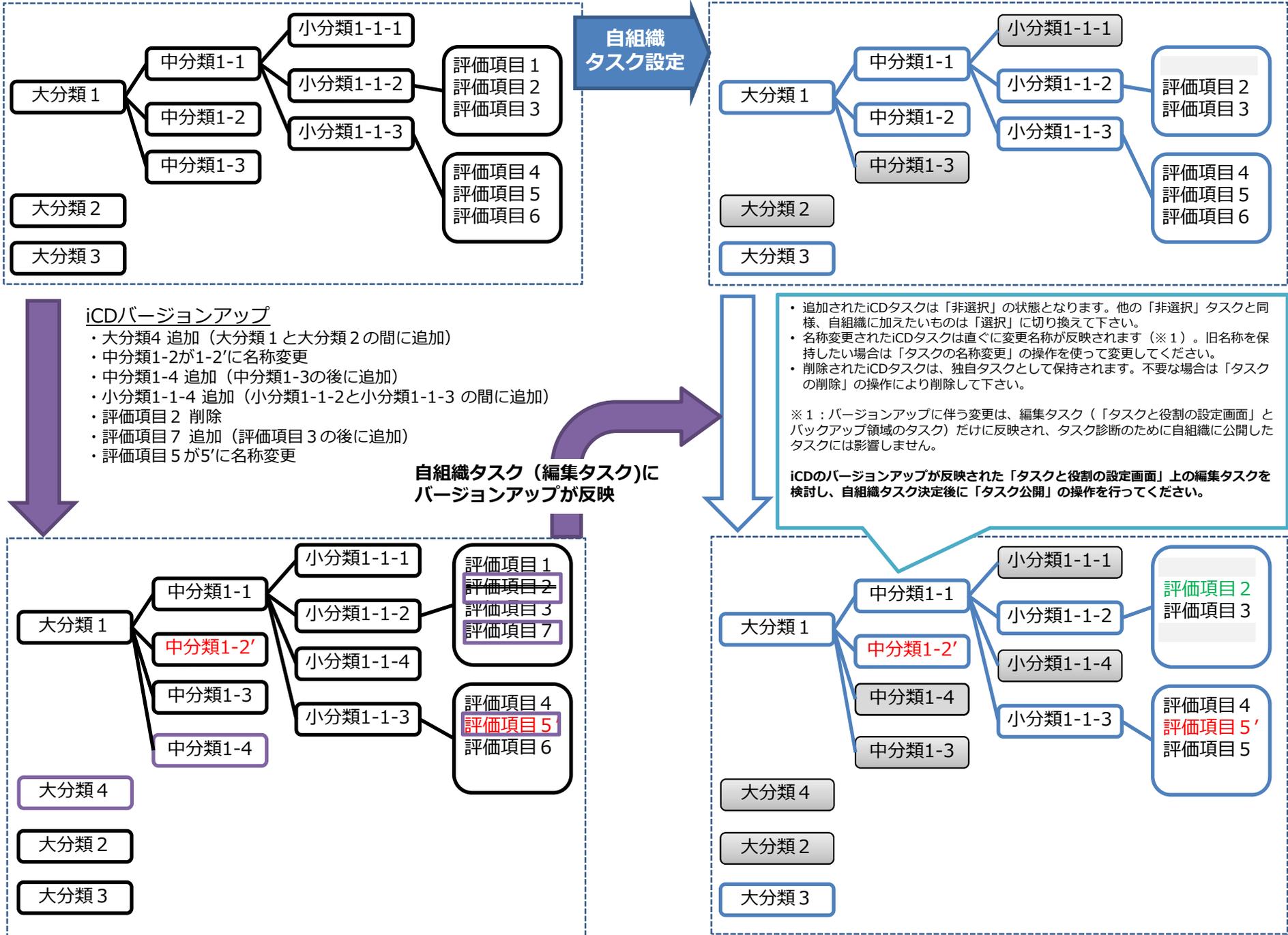


管理番号	分類	区分	質問	回答
1	iCD活用システム [タスク編] [スキル編]	動作環境	どのブラウザで利用できますか。	ウェブ標準 (W3Cが勧告しているWWW関連の規格) に準拠したブラウザで利用可能です。ブラウザの種類・バージョンの特性により正しく動作しない場合があるのでご注意ください。 下記のブラウザ・バージョンでの動作を確認しています。 ・ Google Chrome 50.0 ・ Firefox 45.0 ・ Internet Explorer 11 また、セキュリティ保持のため「TLS1.2を利用する」設定が必要です。 ※適時、新バージョンでの動作確認と結果を公開します。
2	iCD活用システム [タスク編] [スキル編]	個人情報	利用する社員の社員番号、氏名等の情報を設定する方法を教えてください。	iCD活用システムでは、組織利用の申込み情報を含む一切の個人情報は設定できません。ユーザマニュアルにも記載していますので、ご確認ください。 ※ユーザマニュアル (タスク編) 「はじめに 4. セキュリティおよび個人情報の取扱いについて」参照 ※ユーザマニュアル (スキル編) 「はじめに 4. セキュリティおよび個人情報の取扱いについて」参照
3	iCD活用システム [タスク編] [スキル編]	ログインID・パスワード	ログインID・パスワードを忘れてしまった場合の対応方法を教えてください。	[タスク編] タスク編では、一般利用者がパスワードを忘れた場合は、運用管理者によりパスワードの再設定を行うことができます。 運用管理者権限保有ユーザのパスワードを紛失またはロックアウト (繰返しパスワードを誤って入力したため当該ユーザでログインできない状態になること) した場合は、他の運用管理者権限保有ユーザまたはIPAから提供されたシステム管理者によりパスワードの再設定を行うことができます。 IPAから提供されたシステム管理者を含む、すべての運用管理者権限保有ユーザのパスワードを紛失またはまたはロックアウトすると、運用業務を行うことができなくなります。 [スキル編] スキル編では、作成したログインID・パスワードを紛失またはロックアウトすると、ログインできなくなります。 ※ユーザマニュアル (タスク編) 「3.2 ユーザの追加・変更・削除」参照 ※ユーザマニュアル (スキル編) 「1. 個人利用の申込み」参照
4	iCD活用システム [タスク編]	組織・ユーザ管理	会社の組織再編があり、メンバの所属組織を大幅に変更する必要があります。一括して設定する方法はありますか。	※ユーザマニュアル (タスク編) 部門名の変更は「2.3 部門名の変更」、部門の削除は「2.4 部門の削除」、部門の統合 (既存のある部門に所属するメンバを指定部門に異動する) は「2.5 部門の統合」を参照 ユーザの一括登録・変更は「3.1 ユーザの一括登録・変更」参照
5	iCD活用システム [タスク編]	バージョンアップしたiCDの利用	新しいiCDで追加・変更・削除となったタスクを利用する方法を教えてください。	iCD活用システムでは、常にiCDの最新バージョンが利用できるようになっています。 [タスク編] iCDのバージョンアップによって追加されたタスクは「非選択」の状態になっています。このタスクを自タスクとして利用するには、「非選択→選択」の操作を行う必要があります。 「変更・削除されたタスクの扱い」、「公開済みのタスクへの反映」の方法については、 参考資料「iCDタスクのバージョンアップ (自組織タスクへの反映)」 を参照してください。 また、新たに追加された役割も利用できるようになっています。
6	iCD活用システム [タスク編]	自タスク (タスクセット) の設定	iCDタスクを一度に自タスクとして設定する方法を教えてください。	iCD活用システムに登録されているiCDタスクを「選択」にすると自組織のタスク (自タスク) となります。「タスクの一括変更」画面では、表示されているタスク一覧の大分類・中分類・小分類の各タスクをクリックすることで、該当タスク全体の「選択 非選択」を切り替えることができます。 ※ユーザマニュアル (タスク編) 「5.2 自タスクの設定 (3)タスクの一括変更」参照
7	iCD活用システム [タスク編]	自タスク (タスクセット) の設定	自タスクを設定するときに、各タスクを組織と紐づけること (組織機能検証) は必ず必要ですか？組織機能検証を行わずに、役割を設定することはできますか。	機能組織検証は自タスクと役割を設定するための推奨プロセス (「iCD解説書」に記載) に準じて、iCD活用システムで作業を進めるために用意された機能です。組織機能検証では、設定した自タスクと組織で行っている業務を照らし合わせて、設定すべきタスクの抜け漏れを確認します。 自タスクが概ね固まっている場合は組織機能検証はスキップして役割を定め、タスクを紐づけることができます。 ※ユーザマニュアル (タスク編) 「6. 役割の設定」参照
8	iCD活用システム [タスク編]	自タスク (タスクセット) の設定	「担当タスクの一括編集」機能を使って、役割の一括編集を行ったものを取込み操作したのですが、結果がシステム上で確認できません。	役割を含む「担当タスクの一括編集」のシステムへの取込みは、対象の領域を指定して行います。対象の領域とは、編集済みの自タスクを保存する領域で、最大3つ用意されています。 取込みした結果を表示するには、指定した領域のデータを「自タスクと役割の設定画面」に取込みする必要があります。 また、登録した結果をタスク診断結果に反映するには、「8.2 自タスク・役割定義の確定 (2)タスクの公開」を実行します。 ※ユーザマニュアル (タスク編) 「5.5 編集データの管理」「5.6 担当タスクの一括編集」「8.2 自タスク・役割定義の確定 (2)タスクの公開」参照
9	iCD活用システム [タスク編]	自タスク (タスクセット) の設定	一般ユーザがタスク診断を実施中や実施後に、役割や判定基準を変更して判定結果に反映させることはできますか。	タスク診断では、タスク小分類単位 (または評価項目単位) に診断結果を保有します。そして、その診断結果に基づきタスク大分類、中分類、役割単位判定を行ったものが判定結果となります。判定結果を閲覧するときには、都度、保有している「診断結果」と設定されている「判定基準」に基づいた判定が行い表示します。 そのため、判定基準を変更すると、変更後の閲覧から、変更内容が反映された判定となります。
10	iCD活用システム [タスク編]	自タスク (タスクセット) の設定	自社に合わない評価項目があるのですが、変更する方法はありますか。	評価項目は変更することができます。 評価項目は、各タスクを遂行する上での代表的な活動を具体的に示したものです。従って、自組織のタスクとして選択したiCDタスクの評価項目を、組織の業務の流れ、商習慣、規則等に合致するように変更、追加、(該当しない項目の非選択) をすることが有用です。操作方法はマニュアルをご覧ください。 ※ユーザマニュアル (タスク編) 「7.1 タスクの評価項目の設定」参照
11	iCD活用システム [タスク編]	自タスク (タスクセット) の設定	自組織タスクに別冊タスクを選択していましたが、iCD2017になって自組織タスクが増えたようです。何か変わったのでしょうか。	iCD2017から別冊タスクの扱いが変わりました。 iCD2016までに「新たな価値創造による新規製品・サービス開発」、「営業業務」のいずれかのタスクを自組織タスクとして選択している組織利用者は、別冊タスクの扱いの変更にご注意ください。詳しくは 参考資料「別冊タスクの扱いの変更」 を参照してください。
12	iCD活用システム [タスク編]	タスクの診断	タスク診断画面に表示される「重複あり」はどんな意味ですか	自タスクの中に同じ内容のタスク小分類が複数含まれることがあります。この同じ内容のタスク同士を「重複タスク」と呼びます。重複タスクでは、一方にレベルを入力すると、他方にも同じレベルが複写されます。「重複あり」の表示は、当該タスクが重複タスクであることを示しています。 重複タスクは、異なる体系 (iCDでは別冊タスクと称しています) から自組織に必要なタスクを選択した結果、タスク最小単位では同タスクとなるものが選択されることで発生します。 大分類、中分類を1つの役割の単位として扱ったり、各部門の遂行力を把握する (タスクポートフォリオ表示など) には有用なため、同じタスクの診断を繰返す負担を避ける方法が必要です。 そこで、同一タスクの診断結果が自動的に複写する仕組みが用意されています (AタスクとBタスクが同じタスクの場合、Aタスクの診断結果を入力すると自動的にBタスクの診断結果として複写されます。その後Bタスクの診断結果を更新すると、Aタスクの診断結果として複写されます)。 いずれのタスクが同じタスクかを知るために、タスク診断画面に「重複あり」ボタンを表示して、該当タスクと同じタスク (診断結果が複写されるタスク) を閲覧できるようになっています。 ※ユーザマニュアル (タスク編) 「16.1 タスク診断の実施 重複タスク情報の表示」参照
13	iCD活用システム [タスク編]	タスクの診断	一旦提出した診断結果を変更できないようにすることはできますか。	タスクの診断は、回答期間以外での入力・変更ができません。 タスク診断をおこなう期間である回答期間は「9. 回答期間の設定」で設定します。 (回答期間以外の期間でも、提出済みのタスク診断の結果を参照することはできます) ※ユーザマニュアル (タスク編) 「9. 回答期間の設定」参照
14	iCD活用システム [タスク編]	タスクの診断	タスク診断の結果を見ることができません。	[タスク診断結果を提出する] ボタンを押して、タスク診断を完了するとタスク診断の結果を参照することはできません。 [タスク診断結果を提出する] ボタンを押していない場合 (押した後1つ以上の診断変更をした場合を含みます) は、診断が途中と判断されるため、診断結果は表示されません。 この場合、該当ユーザの「タスク診断提出状況」(マネージャモードの機能) は「提出済」以外のステータスになっています。ステータスの詳細は、マニュアルを参照してください。 タスク診断の結果を見るには、回答期間中の場合は [タスク診断結果を提出する] ボタンを押してタスク診断を完了してください。回答期間終了後は運用管理者によって回答期間を延長するか、次の回答期間にタスク診断を終了する必要があります。 ※ユーザマニュアル (タスク編) 「18. タスク診断・判定プロセス監視 (マネージャ)」参照

15	iCD活用システム [タスク編]	タスクの診断	回答期間を延長する方法を教えてください。	<p>タスク診断を実施する期間は「9. 回答期間の設定」で設定します。 新規の回答期間作成では、現在時刻以降の開始日時、終了日時のみが許されますが、設定済みの回答期間の開始日時、終了日時は以下の条件を満たす指定が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終了日時は開始日時よりも先の日時であること ・設定済みの他の回答期間の範囲と重ならないこと <p>※ユーザマニュアル（タスク編）「9. 回答期間の設定」参照</p>
16	iCD活用システム [タスク編]	タスクの診断	タスク診断の内容を、提出後に変更する方法はありますか。	<p>回答期間内であれば、「タスク診断結果を提出する」ボタンを押した後も、そのままタスク診断内容を変更することができます。</p> <p>変更後は、忘れずに「タスク診断結果を提出する」ボタンを押して、タスク診断結果を提出してください。</p>
17	iCD活用システム [タスク編]	タスクの診断	部下の診断状況を把握する方法はありますか。	<p>マネージャ権限を持つユーザは、閲覧対象ユーザのタスク診断提出状況を参照することができます。</p> <p>※ユーザマニュアル（タスク編）「18. タスク診断・判定プロセス監視（マネージャ）」参照</p>
18	iCD活用システム [タスク編] [スキル編] iCDオフィシャルサイト	研修・書籍・資格関係	研修・書籍・資格の検索画面の「レベル指定」にある「設定なし」はどのような意味ですか。	<p>iCD活用システムやiCDオフィシャルサイトに登録されている「研修・書籍・資格」情報を検索する際、「研修の『資格・認定対策研修』」と「書籍」を検索するときに使います。この2つの情報には、レベルが設定されていないため、検索条件「レベル指定」の項目では「設定なし」を選択してください。</p> <p>「研修・書籍・資格」情報は、iCDのタスクやスキルと紐づいており、紐づいているタスクやスキルの強化や到達状況の確認に活用できます。</p> <p>例えば任意のタスクに紐づいている研修では、研修が目指すゴールに照らし合わせて紐づけたタスク遂行力のレベルを設定しています。</p> <p>一方、研修の「資格・認定対策研修」は、対象とする資格に合格することを目的とした研修のため、紐づいているタスクとスキルのみを示し、それらのレベルを設定していません。「書籍」も同様です。そのためレベルの値での検索ではなく、「設定なし」で検索することができます。</p> <p>※ユーザマニュアル（タスク編）「11.2 研修・書籍・資格の検索」参照 ※ユーザマニュアル（スキル編）「5. 研修・書籍・資格の検索」参照</p>
19	iCD活用システム [タスク編]	研修・書籍・資格関係	研修の検索を行ったとき、iCDオフィシャルサイトとiCD活用システムでは、同じ検索条件を指定しても検索結果が異なる場合があるのはなぜですか。	<p>iCDオフィシャルサイトとiCD活用システムは、同じ研修・書籍・資格情報を参照しています。</p> <p>しかし、検索対象が以下のように異なるため、検索結果が異なる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iCDオフィシャルサイト：登録されている全データを対象 ・iCD活用システム：企業ごとに運用管理者が指定した事業者のみのデータを対象 <p>iCD活用システムでは、企業ごとに、対象としたい事業者を設定することができます。</p> <p>※ユーザマニュアル（タスク編）「11.1 研修・書籍・資格の選択」参照</p>
20	iCD活用システム [タスク編]	研修・書籍・資格関係	自社で提携している研修事業者があるので、会社が推奨する事業者の研修のみを表示したいのですが、方法はありますか。	<p>iCD活用システムでは、企業ごとに、表示したい「研修・書籍・資格」の主催組織を設定することができます。運用管理者モードで「研修・書籍、資格管理」メニューから設定してください。</p> <p>※ユーザマニュアル（タスク編）「11.1 研修・書籍・資格の選択」参照</p>
21	iCD活用システム [タスク編]	研修・書籍・資格関係	自社内の研修をiCDで管理する方法はありますか。	<p>iCD活用システムではiCD2017から、自社内研修等を登録できるようになりました。運用管理者モードで「研修・書籍、資格管理」メニューから設定してください。</p> <p>※ユーザマニュアル（タスク編）「11.3 自社独自の研修・書籍・資格管理」参照</p>
22	iCD活用システム [タスク編]	目標設定	目標を設定する際、目標とするタスクだけでなく、そのタスクのレベルの目標も設定することはできますか。	<p>目標の設定は、タスク単位で設定する方法になっています。レベルの目標については、タスク診断（回答詳細）画面の「備考」に記載することで、「タスク診断（回答）画面」の「診断メモ」に表示され管理することができます。</p> <p>※ユーザマニュアル（タスク編）「13.1 個人目標の設定」「16.1 タスク診断の実施」参照</p>
23	iCD全般	連絡先	iCDに関する問い合わせ窓口を教えてください。	<p>iCD専用の問い合わせ窓口は用意していません。</p> <p>IPAホームページの「お問い合わせ（IPA事業全般）」よりお問い合わせください。 https://www.ipa.go.jp/about/inquiry_index_0.html</p> <p>また、関連団体、連携団体による取組みについては、それぞれの団体のお問い合わせ窓口をご利用ください。</p>

参考資料 iCDタスクのバージョンアップ (自組織タスクへの反映)



参考資料：別冊タスクの扱いの変更

別冊タスクは、タスク大分類名が示す特定の業務をタスク中分類・小分類で網羅的に表したものです。



図1 iCD2017の別冊タスク

別冊タスクのタスク中分類・小分類の一部は、本編タスク（別冊以外のタスク）に含まれる中分類・小分類と重複する場合があります（以下、この重複するタスクのことを「重複タスク」と呼びます）。

iCD2017より、iCD活用システムにおける重複タスクの扱いが一部変更となりました。

iCD2016で以下のいずれかの別冊タスクを自組織タスクとして選択している利用者につきましては、以降に説明される変更内容にご注意願います。

- 新たな価値創造による新規製品・サービス開発
- 営業業務

1. iCD2016における別冊タスクの扱い

iCD2016では、別冊タスクに含まれる重複タスクを自組織タスクとして選択した場合、重複タスクは本編タスクのみに表示されていました（図2）。

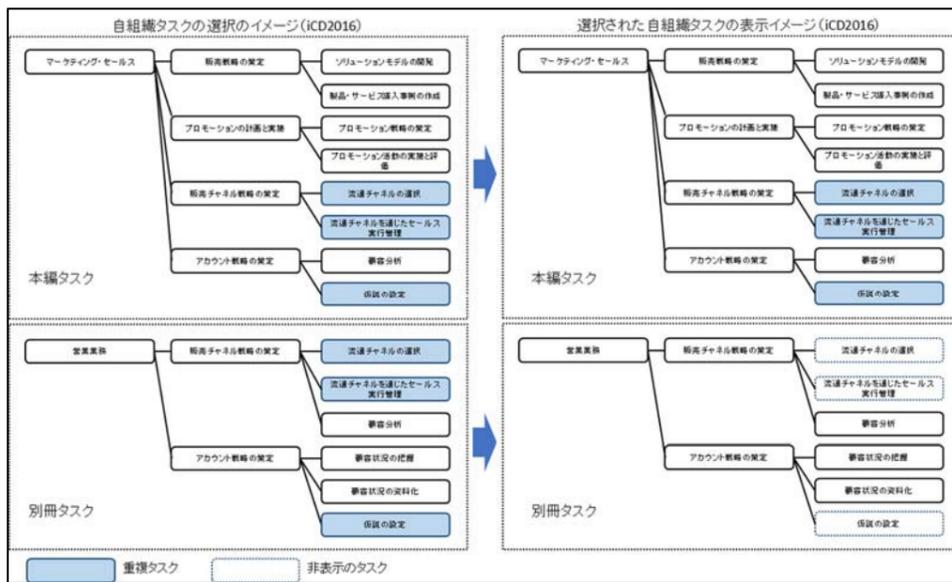


図2 iCD2016における重複タスクの自組織タスク選択と表示

2. iCD2017における別冊タスクの扱い

iCD2016で別冊タスクに含まれる重複タスクを自組織タスクとして選択した場合、iCD2017では重複タスクが本編と別冊の両方に表示されます（図3）。

※ 例外（3-(4)参照）を除いて本編タスク配下に変更なく、別冊タスク配下に重複タスクが選択タスクとして追記表示されます。

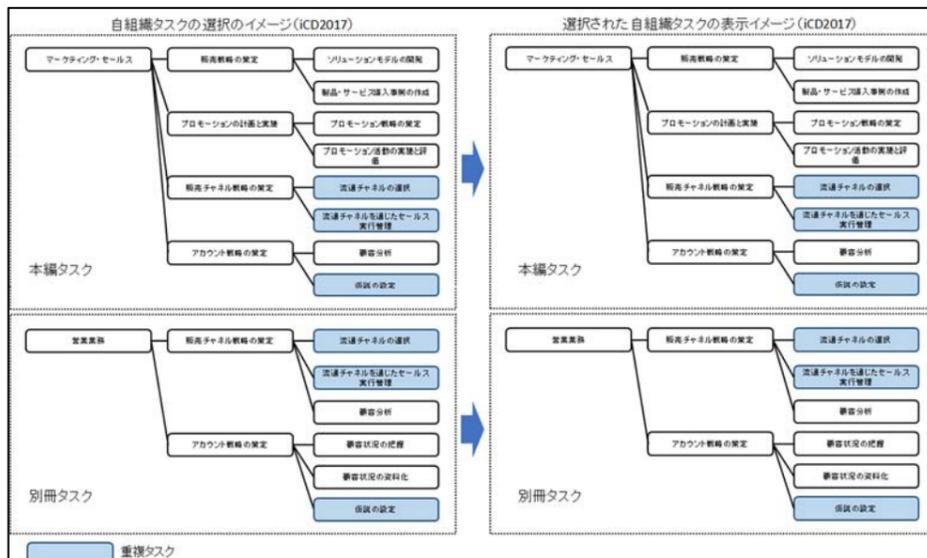


図3 iCD2017における重複タスクの自組織タスク選択と表示

3. 別冊タスクの扱いの変更に伴う注意事項

別冊タスクの扱いの変更に伴うデータ移行と機能強化によって、表示や自組織タスクの選択の操作が一部変更となります。

(1) 自組織タスクに含まれる重複タスクの表示と選択

自組織タスクに重複タスクを含んでいる場合、本編、別冊の両方に重複タスクが表示されます（「2. iCD2017 における別冊タスクの扱い」参照）。どちらかの重複タスクが不要の場合、「タスク役割設定」で非選択としてください。

※タスク診断の結果は、いずれの重複タスクにも引き継がれています。

(2) 自組織タスクの選択方法の変更

iCD2016 では、本編、別冊の重複タスクのいずれかを選択（、非選択）にすると、すべての重複タスクが選択（、非選択）となりました。

iCD2017 では、重複タスクの選択（、非選択）は各々独立した設定となります。各重複タスクを自組織タスクとしたい場合は、それぞれを選択する必要があります。

(3) タスク診断結果の扱い

iCD2016 の重複タスクは本編のタスクとしてのみ扱われ、タスクの診断を行いました。

iCD2017 で本編、別冊の重複タスクをいずれも自組織タスクとして選択した場合、タスク診断の対象タスクとしても重複しますが、重複タスク間で診断結果は共有されます（重複タスクの診断結果は、重複するタスクの診断結果として複写されます。重複タスク間で最後に設定した診断結果が保存されます）。

タスク診断の際、診断するタスクが重複タスクの場合は「重複あり」ボタンが表示され、そのボタンを押すことでどのタスクと重複しているかを閲覧できます（「ユーザーマニュアル（タスク編） 16. タスク診断の実施 重複タスク情報の表示」参照）。



図4 タスク診断画面（重複タスクの表示）

(4) 重複タスクの扱いの例外事項

iCD2016 では、別冊タスク「営業業務>ソリューションの組立て」の3つのタスク小分類（下記の黄色枠）を自組織タスクとして選択した場合は、本編のタスクとして表示されていました（図5 「自組織タスクの選択のイメージ（iCD2016）」、「選択された自組織タスクの表示イメージ（iCD2016）」）。

- 提案書の作成のための情報収集
- 提案書の作成
- 提案書の最終調整

これら3つのタスク小分類は、本編タスク「マーケティング・セールス>ソリューションの組立て>提案書の作成」タスク小分類（下記の橙色）を分解・詳細化したもので、いずれか一方を自組織タスクとして利用します。

そこで、これら3つのタスク小分類は、本編、別冊の両方に重複タスクが表示せず、図5 「iCD2017 移行後の自組織タスクの表示イメージ」のように別冊のみの表示になります。

※「3つのタスク小分類」にタスク診断結果がある場合は、別冊タスクとして表示される「3つのタスク小分類」として保持されています。

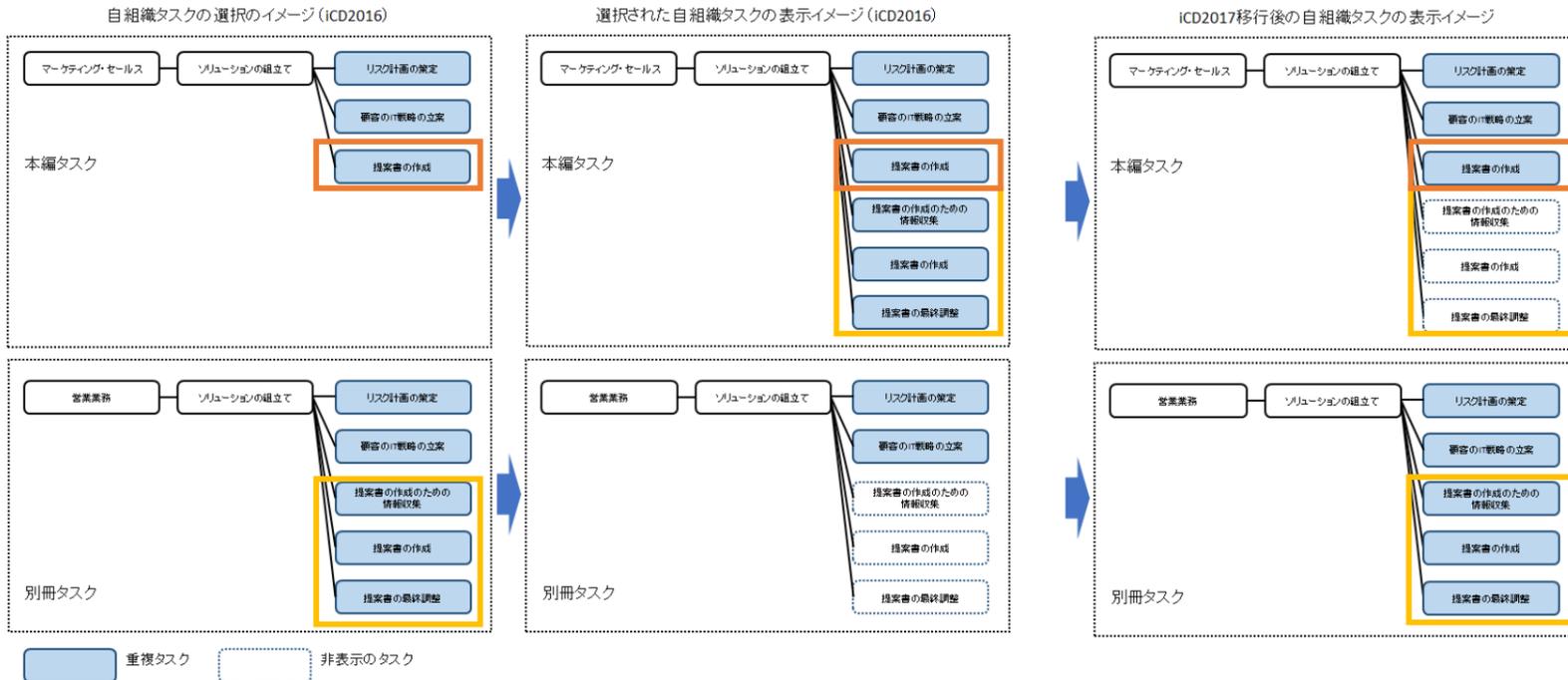


図5 「営業業務>ソリューションの組立て」の3タスク小分類の扱い（iCD2016、iCD2017 データ移行後）